

## 中小企業の振興を希う

最近の政府の重点的施策のうちに中小企業の振興策が加えられているということは、我々のように主として中小企業を対象として就職のあつ旋をしているものにとつても関心をひかれるところですが、その従業員をも含めての業者達が期待しているところはさらに想像以上のものがありましよう。

例年三月も末の頃となれば、上野、新宿等の駅頭を賑わす林檎の様な顔をした少年少女の一群が到着列車から吐き出される朝が続きますが、これらの地方の中学や高校を卒業したばかりの人達は、在学中に地元の職業安定所を通じて都内への就職を希望し、東京からの求人に応募して採用となつたのですが、その胸に抱いた夢がどんなに大きなものであろうと、それぞれが落つく先は大部分中小企業乃至は零細企業なのです。そうしてまだ汽車の疲れも投げきれないうちから、埃つばい店頭や薄暗い作業場の片すみに立つて社会人としての第一歩を踏み出すわけですが、彼等の望んだ職場、彼女等の憧れた仕事は、何と殺風景なところであり面白くもない作業だつた

ことでしょう。そこで気の早いものは僅か数時間のうちに「俺の考えていた仕事と違ふ」と云つて再び車中の人となり、或は二、三日の間に荷物をまともにかかるといふことにもなりません。何といつても赴任後帰郷したり転職を希望したりする率の多いのは一カ月から三カ月の間で此の間職場を離れなければどうやら辛棒が出来ると思つてよいようです。

### 二

ではどんな点で彼等の期待が外れ夢が破られるのかといひますと、一番困るのは、自分の就職先がどんな事をしている会社か、どんな条件で採用になつたかも知らず、漠然と上京して来た人達で、ただ東京での生活は楽しいものだと思つて来ただけに、仕事に性に合わないとか、主人や同僚とうまくいかないというような理由であつさり離職してしまいます。

その他に家事の都合とか原因不明で退職しているものが相当ありますが、この人達もおそらく仕事や待遇に対する不満が根本原因ではなからうと思われまふ。

大 森 啓 世

(三九回生)

それでは現在勤めている人達は皆現状に満足しているかという  
と、半数以上は不満を持つており、その一五％位は不満に耐えら  
れないから転職したいと考えている位です。

次に今春学校を卒業し住込で東京に働いている人達からの意見を  
きいて見ることにしましょう。

第一に不満の種となつてゐるのは採用の時の条件と違つた条件で  
働かされてゐるということです。どんな点で違ふかというとな、一、  
賃金や昇給率が低い。二、労働時間が長い。三、違つた仕事を与え  
られてゐる。四、作業設備、環境が悪い。五、福祉厚生施設がない  
(又は悪い)等と指摘してゐます。

第二に自分の考えていた住込生活と違つてゐる点としては、一、  
食事が悪い(又は合わない)二、寝るところが悪い。三、家の雑用  
をやらされる。四、朝早く夜遅い。五、自分の時間がない、等と云  
つてゐます。

第三は自分の考えていた仕事と違つてゐたとして、一、仕事がむ  
ずかしい。二、仕事が多過ぎない。三、仕事が重労働だ。四、仕事が  
性に合わないと云つてゐるものもあります。

また職場全体への不満としては、一、職場が多過ぎない。二、職場  
が狭い。三、職場が暗い。四、職場の風紀が悪い。などの点があげ  
られてゐます。

その他、先輩から受ける扱いが不満の種であつたり、土地不案内  
のため配達に出されるのが苦痛であつたり、嫌なことやつらいこと  
は数限りなくありますが、一つには本人達の考えが甘すぎたことに  
もより、現在の中小企業の経営面からは免れないシワヨセに苦しま  
されてゐる面もあります。

## 三

前にあげた項目について実例をあげてみることにしましょう。

ある製本会社では、賃金は三食付で二、五〇〇円と約束しておき  
乍ら実際には一、五〇〇円しか払わず、超過勤務手当もなしに每晚  
九時一〇時迄働かせられるし、女子工員は一つしかない盗を順番で  
使うため更に就寝時刻が遅くなるという情報が入りました。早速会  
社に行つて社長に待遇改善を申入れたところ、最初の月は衣類もロ  
クロク持つて来ないために衣料を支給した分を差引いたから給料が  
低かつたが、二カ月目からは平均二、八〇〇円位支給してゐるし、  
宿舍もそんなに不満では無いと答えたのです。ところが、その後三  
カ月程たつても失張り同様の不満を訴えて来るので現場を仔細に見  
て廻り、人員に比して手洗所の数が少ないこと迄確認して社長の誠  
意のなさを責めたところ、やつと御興をあげたと見え、数日後には  
今支払つたばかりの電気洗濯機の領収書を持つてあやまりに来まし  
た。

またある食品製造会社に赴任した人達から勤務時間が長く、宿舍  
が狭いと不満が起り現場に行つて見ると、なる程モルタル建の板  
の間に三段式に拵えられたベッド式の宿舍でその通路も体を斜にし  
なければ通れない位、太陽の光線の入る隙間も無い有様でした。そ  
の上丁度観光シーズンで毎日何千個というお弁当の注文を時間迄に  
納めねばならず、暗いうちにベッドを這い出して一日目の廻る思い  
をさせられ、風呂へ行く間もないまま寝につくという日が続いたよ  
うですから、中にはこれでは寿命が縮むと本気で考えたものもある  
に違いありません。そこで、宿舍は土地の高い東京のこととして止む  
を得ないとしても、他の面で従業員の身心の健康を維持出来るよう

な方法を考えるよう強く要請して帰りました。

そして翌月に事業所を訪問したところ、責任者が晴々とした顔付で、あれから直ぐ従業員達と話し合いの会をもちお互に意見を交換したところ、野球部を作つて欲しいとか旅行に行きたいとか色々な希望も出たが、出来ることから実施することにしたところ、大変皆の気持が明るくなり仕事にも身が入るようになったので、今後もうこの会合を続けてゆきたいし、宿舍のことも出来るだけ研究して見たいと話された。

この他我々の予想外に問題となるのが食事のことで、量的にも農村などで育つた少年達の胃袋に満腹感を与えることは容易でない上に、パン食は殆ど嫌いで、中にはパンを見ると胸が悪くなると答えているものもあります。

一方、運送会社等で歯切れの良すぎる青年達が親しき余つて荒つぱい言動をすると、おつとり育つて来た少年は一々叱られているように思つてすくんで了つたり、雇主は本人のためを思つて行儀が悪いと注意したのが少女の神経に障つたり、数え切れない程の問題が次々と持込まれて来ます。

#### 四

以上のような不満の原因を大別すると、さきにもちよつとふれたように本人たちの夢が現実ばなれしたもので、一般水準に近い条件でも不満でならない場合と、事業主が意図するとしないとに拘わらず求人条件に違反したり、非常識な取扱いをした場合とに分けられます。

前の項目に多いのは、工員と云えば明日からでも立派な機械を目前に据えて立派な製品を次々作り上げてゆくものだと考えたり、

店員ならば綺麗な服装をして客に品物を渡したり代金を受取つたりすれば事足りると思つているため、これに附随する雑用とか準備作業などが嫌になるものです。

殊に見習中には雑用専門のような場合が多く、其の間に仕事の金を容をのみこませようとするのですが、氣負いたつた若い人は、自分を一人前に扱つて呉れないという不満に氣をとられて、この期間を有効に過そうと考える事は望んでも無理かも知れません。

また仕事そのものに対する理解が足りないのは学校の教官や安定所職員の職業指導の不備も一因と云えるかも知れませんが、如何に参考資料を並べて説明しても現地に無い職種は呑み難く、スライド等の一部を影写されるとその場面だけが頭に沁みついて、却つて順応し憎い心理状態を招くこともあります。

こうした本人の主観に基づく不満は職業相談、職業指導の段階で或程度緩和出来ると思われませんが、後者の事業所の待遇に關しては、一方的に要求をつきつけても其の背後にある日本経済の偏向が是正されない限り可能な範囲は知れているという気がします。

現に製本業者などは常に大資本の出版社から期日迄の納品を迫られる關係上一定の人員は確保せねばならないのに、支払は長期を要さないと換金されない場合が多く、一人当りの賃金を下げるか勤務時間を延長するかしないと採算がとれなくなると異口同音に答えています。さりとて水準以下の求人条件ではどの地方からも応募者は出る見込が無いので、履行出来ないのを承知で水増し賃金や空手形のような昇給賃金の規定を提示して来る求人者もあります。しかしこうした作為は数年の間に採用者の出身地で評判となり、製本業には就職させるなという声が高まつて来て一層募集を困難させますか

ら、最初は必要人員の数を採用して置けば相当数の退職者が出ても仕事はつないでゆける、大方辞めて了う頃には又新年度の卒業生を雇入れればよいという考えの雇主は考え直さねばならなくなりました。それに年々地方出身者で都内に就職を希望する者と雇い入れたいと申込む数とは差が大きくなり、条件の悪い求人にとままだ応募者が出たと思えば非常に頭の悪い子であつたり、体力の無いものだつたりする場合がありますので、事業を發展させるためには矢張り無理をして優秀な人材を獲得出来るだけの待遇を打出さねばなりません。近年は一部の業者の悪印象から各地でポイコットされていた製本業者がお互に戒め合つて、待遇を向上させようと努力していることはよろこばしいことです。

また販売関係でも会社組織の確立された事業所は就業規定も常識的なものが施かれているので余り不満は起らないのですが、個人経営の商店に八時間労働、交替制勤務を望んでも受け入れられないのが実情です。しかしここに政府や協同組合の支援があつて最初は採算がとれなくとも新しい経営状態に切換えることが出来れば、従業員も現在より能率的に勤務出来るし、安かろう悪かろうと云われるような人達だけしか雇えず、やつと仕事を覚えた頃には辞めて了れるというような状態を続けるよりは企業の發展する可能性も増すのではないかと思われまます。

## 五

最後に最低賃金制にふれて見たいと思ひますが、此の間もある事業主と談合した際に「これでまた最低賃金制が施行されれば失業者が増えますよ。」と云われました。此の言葉はおそらく、現在の中小企業の資金繰りの困難さは人件費の切りつめを考えこそすれ増額

など思ひもよらないから、最低賃金を決められれば今後の雇用量が抑えられるばかりでなく、現在就労中のものでも賃金に見合つだけの働きの無いものは経営合理化の名によつて首を切られるであろうことを予想しているのではないかと考えられます。ところが失業するよりは低賃金でも雇われている方がましではないかという考えが事業主にある限り有能な人材を集めることは困難で、現にあれ程の失業者が連日殺到する安定所の窓口でも条件の悪い求人は未充足のまま取り残され、一日でも早く就職したいと希期する人達は求人側の要求する技能が無かつたり、年令制限の枠からはみ出しているためにむしろ失業対策事業に就労出来る資格を得ることに努力するといった状態です。勿論企業は社会事業では無いのですから最少の投資で最大の利潤を得ることを目標とするのは当然で、生活に困つている人を優先的に採用されたいと要求するわけにもゆきませんが、慨して生きる事に真けんな人達の勤務ぶりは立派で身辺の煩わしい事の為に欠勤したり一寸した不満で退職するような傾向は見られせん。むしろ各社が好んで迎え入れようとする独身の若い女性、しかも家庭環境の良いお嬢さんタイプの人達には、職業意識の低い腰掛けの勤務ぶりが散見されますし、結婚の為の退職は丁度会社の繁忙期に当らうと補充のつき難い時期であらうとお構いなしに行われる次第です。従つて最初から低賃金で補助的作業に従事せよとか、アクセサリーとして男子社員にの気持を和やかにさせる目的で採用する会社にはもつてこいのわけですが、中小企業ですべての業務を関連させて呑みこまないと留守番にも差し支えるような場合は、むしろ無駄な資金を支払つて報われることのない訓練を行なつていようにも見えます。

現在パートタイムの紹介は各企業で重宝がられています。常用に比して割高な賃金でも利用して見ると技能的にも人物的にも優秀な人が派遣され、時には常用に切替えて引続き勤務して貰い度という要望が出るのは、パートタイムを希望する人達の多くが、年令の点とか家庭の事情（女なら配偶者があるということだけでも）とかで常用求人条件の枠からはみ出しているだけで、使つて見れば有能さが分るという類の人たちであるということを示していると思います。そこで最低賃金が決つたため全般の給与水準も上げねばならぬから先ず人員を減らそうということよりも、先ず給与にふさわしい能力の人を雇入れて企業を健全に発展させる方向を考へて貰いたいものです。そうなれば一時的に失業者が増加したとしても真の困窮者の比率は高くないし、やがてはこれらの人達にも職が与えられる筈にならうと思うのは、我々の立場からする一方的な希望的観測に過ぎないでしょうか。

さらに兜春禁止法が施行されてからの特殊婦人の就業施設も現在では皆無に等しい状態なので、我々は業者の理解ある受入れを期待しているわけですが、此の問題は特殊婦人の訓練や再教育の方がむしろ先決問題となりましょうし、稿を改めて意見を述べさせていただきますことにしたいと思います。

ともかくにも完全雇用とか日本経済の健全化とか云う目標達成は、一重に中小企業の振興が成るかどうにかかっていると考へ、政府並びに大企業の親心を期待しているものです。

（神田橋女子公共職業安定所職業紹介課勤務

昭和二十四年十二月渋谷公共職業安定所に入り

二十八年九月神田橋へ転勤）

特集 卒業生の論稿

### 三一年度卒業生の進路

最近の卒業生の進路で目立つことは、以前より、社会事業関係へ進む者が多くなつたこと、家庭にいる者が少なくなつたこと等である。

昭和三一年度の卒業生五〇名中の就職状況は左の通りである。

	項 目	人員	%
就	各種社会事業関係	18	36
	官庁事務関係	1	2
	研究所、学校関係	3	6
	一般会社	7	14
職	ジャーナリズム関係	2	4
	その他	4	8
進学	他大学へ編入	1	2
家庭にある者		14	28
計		50	100

尚、三二年度卒業生も五五名中三七名が就職を希望しており、中二二名は決定、六名はほぼ決定している。

以上三三年三月一三日現在